

# 月刊島民

中之島

Vol.60 2013/7/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン

天神祭的  
コミュニケーション。



ナカノシマ大学

「すごいぞ!  
鉄道王国・大阪」

黒田一樹

申し込み受付中!

# 天神祭的コミュニケーション。

中之島に本格的な夏の到来を告げる天神祭。

その見方はさまざまだが、今回は「コミュニケーション」に注目してみたい。

祭神である菅原道真公と祭に奉仕する氏子たち、あるいはその氏子たちと祭見物に集まってきた観客。その両者をつなぐための装置が天神祭の随所に見られる。

監修 高島幸次（大阪天満宮文化研究所）

## 車



### 御鳳輦講

およそ3000人の陸渡御列の中心的存在であり、特に雅やかな装いなのが、菅原道真公の御神霊を奉安した御鳳輦に奉仕する御鳳輦講。菅公の乗りものであるこの講が通過する時は、厳かな空気が流れ、群衆も本殿参拝と同じくふるまう。戦後間もなくまではお賽銭を投げる人もいた。輦輿の屋根には鳳凰の飾りが輝く。

### 御羽車講

公用車とされる御鳳輦に対し、私用車と位置づけられるのが御羽車。その形状は平安時代の貴族の乗り物だった牛車で、御神霊を奉安する車を特に御羽車と呼ぶ。毎年7月23日には、御神霊を御羽車に遷し、天神祭が無事に行われることを願う巡行が行なわれる。



**天神さんと一緒に歩く時に、必要なものとは？**

祭におけるコミュニケーションには、大きく分けて二つある。まずは神と人とのコミュニケーション、天神祭の場合なら、祭神である菅原道真公と祭に奉仕する氏子たちの関係性を見てみよう。

日頃、氏子たちは神社を参拝し、「今日も1日よろしくお願ひします」と神さまに対してメッセージを送り続けている。けれど、そのことについて神さまからの日々のリアクションはない。その代わり、ほとんどの神さまは年に1回、「お前たち、無事に過ごしているか」と、神殿の奥深くからお出ましになる。神道的な言い方をすれば、「氏地・氏子の無事平安を見回すため」に神社の外へ出る。これが人間の日頃のアプローチに対する神さまからの答えなのである。

ところが話はここで終わらない。氏

### 丑日講

道真公が愛用していたとされる太刀を捧げ持つ、江戸時代中期（18世紀半ば）から続く古い講の一つ。現在のものは伊勢神宮から拝領した古い太刀だ。宵宮祭では、陸渡御前に大阪天満宮境内に置かれた太刀を間近で見ることができる。



## 太刀

### 神饌唐櫃

天神さんだってのどが乾いたり、お腹が減ったりもするので、召し上がる供物、神饌を唐櫃に入れて捧げ持つ。中身が気になる？ 納めてあるのは御食（みけ）や御酒（みき）と呼ばれ、酒に始まり、餅や海魚（鯛）、海菜（乾物）、野菜、果物、塩、水など。

## 食事



# 菅原道真公 ゆかりのものも。



牛

## 福梅講

道真公ゆかりの動物である牛も、男女2名の牛曳童子に曳かれ、背中に花籠を乗せてお供する。使獣として渡御に参加するのは、はるばる丹波篠山からやってきた本物の牛。親しみをこめて福牛とも呼ばれている。残念ながら船渡御には乗船できないので、少し残念そう？

## 鉾



## 西天満連合神鉾講

天神祭の始まりを告げる鉾流神事で流される鉾の16倍もあり、台鉾という鉾を乗せた山車を捧持する。太刀のような鉾は武器であると同時に、御神霊が宿る依代。ゆえに悪を払うといわれ、陸渡御の第一陣に属し、その後続く行列の先払い役として道を清めていく。

## 旗



## 御旗講

即位の礼や神事に欠かせない神具のことを、「威儀の物」と呼び、普段は目に触れないが、天神祭の渡御列では講員が捧げ持つことで見ることができ。梅の紋と雲が描かれた紅白2本の錦旗だけでなく、御旗講では盾や鉾なども奉じてきたという。



## 北信友の講

御錦蓋に対して、こちら御菅蓋は雨傘、つまり降雨時に菅公を覆うためのもの。あるいは私用とも言われている。奉仕は陸渡御のみで船には乗らない。御錦蓋と同様、梅と松を模した金銀の刺繍がある。傘だけで2種類もあるとは、雷神となった伝説を持つ菅原道真公らしいとも言える。



## 米穀商御錦蓋講

道真公が車から降りて徒歩で移動される際、送り迎えするためには欠かせないのが差し掛けるための傘。台車で運ばれる御錦蓋は錦の日傘で、公用の傘とも言われる。菅公の持ち物であることを示すために、梅と松を模した金銀の刺繍が散らされている。

## 傘

朴な気持ちによって自然に始まったものなの。これは何も天神祭に限った話ではない。全国どこの祭でも同じことが言えるだろう。このように神と人間のコミュニケーションは、1回のやり取りの往復では終わらない贈与的なサイクルを描く。だがそれは誰かが意識してそうしたのではなく、何かの利益を求めているわけでもない。神さまを敬う素朴な気持ちによって自然に始まったものなの。

天神祭の渡御列には、氏子や崇敬者たちが「講」と呼ばれるグループをつくり、さまざまな形で参加している。実は彼らが捧げ持つものの多くは、車や傘など渡御の最中に必要なものや、天神さんにゆかりのものばかり。それも、渡御列が神さまと人間のコミュニケーションであることを考えれば納得できるだろう。では、天神さんにとって必要なものは何か。陸渡御の際にはそれがよくわかる。

のなのだ。

# 神と人の「コミュニケーション」 陸渡御 神さまのお出ましに合わせて、お供する。

## 大阪書林御文庫講

学問の神さまとして崇められる道真公ならではの、書物を載せた「文車」を曳く講。この本は長時間にわたる渡御に際し、道中の仮の奉安所である御旅所で読むためのもの。御文庫とは、出版社が初刷を奉納するために境内に建てた文庫のことを指している。



## 本

天神さんをお迎えして  
盛り上がる。

# 船渡御

神と人のコミュニケーション

中央に写っているのが御鳳葦をのせた奉安船。その脇に、「献茶船」がお茶を持って近づいている。橋の向こうには、奉拝船も見えている(写真奥)。どの船も賑やかに飾って神さまのお出ましを祝う。

## 船が行き交うことこそが、 天神祭の船渡御の醍醐味。

神霊を船に乗せ、海や川をゆく船渡御は、日本全国で見られる。今では少なくなっただけに天神祭に注目が集まるが、かつては大阪のあちこちの神社の夏祭りでも船渡御が行われていた。その中で天神祭に特徴的なのは、川の上流と下流両側から船がやって来る場面が見られるところだろう。

ここで少し船渡御について確認しておこう。「渡御」とは神さまの移動のことを指すから、厳密に言えば、船渡御とは神さまが乗っている船に限られる。天神祭の場合、御神霊をのせた御鳳葦、御羽車、鳳神輿、玉神輿がそれにあたり、「奉安船」と総称される。この4艘の前後に「供奉船」<sup>ぶたねぶねぶ</sup>が加わり、天神橋のたもとから上流へ向けて進むのが船渡御なのである。ちなみに供奉船とは、陸渡御から先導・お供をしてきた各講の氏子たちが仕立てる船をいう。

これに合わせて、大川にかかる飛翔橋から下流へとやって来るのが「奉拝船」だ。企業や大学が中心で、それぞれに趣向を凝らして華やかに飾り、神さまがやって来てくれたことに感謝し、お祝いするのだ。このように川の上で



# 大阪締め

**大阪締めも、御迎え人形も、祝福するためのもの。**

こうした場面が生まれた背景には、江戸時代の天神祭の船渡御が、現在とは反対の下流へ進んでいた歴史が関わっている。ずっと昔、船渡御の行き先は浜から神銚を流す神事によって決まっていたが、江戸時代初期になると御旅所が固定されるようになる。最初は

鷺島（のちの雑喉場）、続いて戎島（のちの梅本町）、明治時代に入って松島と一貫して下流の方角で、その御旅所となる土地もまた大阪天満宮の氏地であった。となれば、神さまの渡御をお迎えしないわけにはいかない。かくして、浜辺から見物するだけでなく、船に乗って賑やかに祝う文化が生まれてきた。

北浜にあった米市場において、取引の金額が決まった際に商人同士の間で手締めが交わされたことのように。かつて御旅所があった雑喉場には魚市場もあり、当然のように市場関係者も天神祭に深く関わっていたことだろう。市場での合意を祝った手締めが、祭においては「神さま、お越しくださってありがとうございます」という意味を込めて、氏子同士の間で行うようになったのかもしれない。

従来は奉拝船と供奉船が行き交う時に、主に船同士の間で行われた。「打ちまーしょ チョン、チョン/もう一つせえ チョン、チョン/祝おて三度 チョヨン、チョン」(※チョン=手拍子)というもの。神さまを迎えられたことを氏子同士で喜び合う挨拶であり、奉安船に向けて行うのはふさわしくない。最近では、船と岸にいる人々、船と橋の上にいる人々にまで拡大されている。船渡御だけでなく、陸渡御の際にもよく交わされる。



## 胡蝶の舞



船に飾られたもので、これも神さまがやって来るのを祝うためのコミュニケーション装置である。大阪府指定の有形民俗文化財となった今は船に乗ることはできないが、毎年、天神祭の日になると大阪天満宮の境内に飾られる。

# 御迎え人形

関羽



## 八幡太郎義家



御迎え人形は、16体が現存。今年は「胡蝶の舞」、「三國志」で有名な「関羽」、平安時代の武将・源義家の「八幡太郎義家」の3体が、7月23日の宵宮から大阪天満宮境内に飾られる。天満天神御伽衆のメンバーによる解説もある。この他、住まいのミュージアム・大阪くらしの今昔館、帝国ホテル、OAP、追手門学院大阪城スクエアでも1体ずつ飾られ、それらをめぐるスタンプラリーも開催されている。

# 会話を生む 装置。

「祭の前、境内に建つ  
「当屋」を覗いてみよう。」

「誰かに  
話したい」が、  
止まらない。

祭におけるコミュニケーションの一方は、人と人のコミュニケーションだ。これは祭の必須要素ではないから、極端な話、なくても構わない。とはいえ、やはり最大の楽しみは、祭に参加する者同士や見物に来てくれた人たちと祭の賑やかな空気を共有すること。それが祭の随所に装置のようにして組み込まれていることが、大阪の祭を特徴づけている。

祭におけるコミュニケーションの一方は、人と人のコミュニケーションだ。これは祭の必須要素ではないから、極端な話、なくても構わない。とはいえ、やはり最大の楽しみは、祭に参加する者同士や見物に来てくれた人たちと祭の賑やかな空気を共有すること。それが祭の随所に装置のようにして組み込まれていることが、大阪の祭を特徴づけている。

現代の天神祭においてそれを実感できるのが、大阪天満宮の境内で見られる「当屋」だ。各講の仮設の小屋のことで、渡御の際に持つ乗りものや捧げものを飾るために、祭の数日前から建てられる。面白いのは、いつもそこに人がいること。ただ単に見せるだけならその必要はないのに、常駐している。保安上の理由もあるだろうが、これは飾っているものの意味について聞かれた時に答えられるように、いや、もっと積極的に見てほしい、聞いてほしいという気持ちの表れではないだろうか。

実際、江戸時代には、いろいろな神社の祭に行っているものを見て、祭の由緒や飾ら説することを芸にしている人がいたという。当屋を訪れる機会があれば、ぜひそこにいる人たちにいろいろ質問することをおすすめしたい。



## と や 見る。当屋を

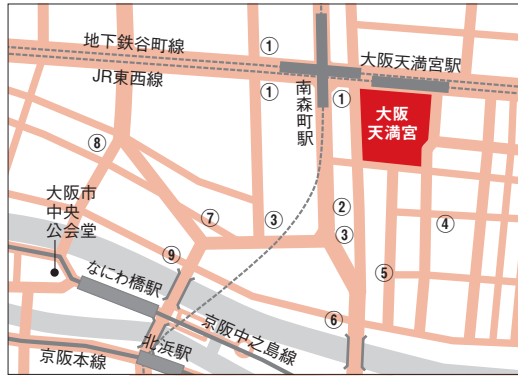


当屋前に、なにやら人だかりが。まさにコミュニケーションが生まれた現場だ。



表参道

探しに行ってみよう! 難読提灯



# 提灯を 読む。

ちようちん  
よそにはない、  
「読めない提灯」の正体とは。  
このように会話を生むための装置は、他にもある。氏地の各町に掲げられる祭提灯もそうだ。ご覧のように一体何が書かれているのか、その意味はおろか、そもそも文字なのかすらもわからない。誰か教えてほしい…。なぜそんな必要があったのだろうか？



**③樽屋町**  
北区西天満3丁目、天神西町  
表面に「挙焯」、裏面に「尊木」と隷書で墨書、側面に「三輪達」を朱記されている。「尊木」は町名にある「樽」を二分したものだ。



**②地下町**  
北区天神西町  
両面に篆書で「地内」と墨書し、側面に「宮」を朱記する。「地内」は大坂天満宮の門前内の意。同宮の連歌師・西山宗因撰定と伝える。



**①天満宮神領地**  
北区東天満2丁目、天神橋2~3丁目、南森町1~2丁目  
表面に篆書、裏面に行書で「恩輝」と墨書。「天子の恩輝(恵みの光)を奉る」という意味。



**⑥市之側**  
北区天神橋北詰め菅原町付近  
表面に「永錫」、裏面に「祚嵐」と篆書で墨書、側面に梅鉢紋を朱記されている。「永く立派な子孫を賜って繁栄する」という意味がある。



**⑤天神筋町**  
北区天神橋1丁目  
表面に「聖廟」、裏面に「如在」と飛白(ひはく=かすれ書き)で墨書。「聖廟」は「天満宮」。「神を祭るには神が在りますがごとくする」の意味。



**④天神橋筋1丁目**  
北区天神橋1丁目、菅原町  
表面に「敬義」、裏面に「奉燈」と篆書で朱記。「敬義(恭敬と義理)を立ててこそ、徳は理解される」という意味である。



**⑨若松町**  
北区西天満1丁目  
両面に篆書で「奉獻」と墨書し、上部の地紙型の中に「若松」を白抜きにしている。提灯商であった和泉屋某なる人物の撰定という。



**⑧老松町2丁目**  
北区天満2丁目付近  
表面には隷書で、裏面には篆書で「獻燈」と墨書している。また、子持ちの朱色の線を廻して、側面には梅鉢紋を朱記している。



**⑦老松町1丁目**  
北区天満1丁目付近  
両面に篆書で「夜燈」と墨書し、下部に太い朱線を廻し、合わせ目には老松町の町名から一字を取って「老」と篆書で朱記している。

実は江戸時代の多くの町内では、天神祭の季節になると、見た人がついその意味を尋ねなくなるよう、意図的に読みにくい、場合によっては全く読めない字体を採用した。こんな難解な文字を書いた提灯を掲げる祭は珍しい。天神祭の提灯は足元を照らすだけではなく、町内の住人とそこを通り過ぎる参拝者とを会話でつなく装置としての役割を担ってきたのだ。

天神祭の随所にコミュニケーションやそれを生むための仕掛けが見られるのには、大阪の人たち特有の人なつこさの他に、「いちびり」の語源にもなった市場関係者や商売人が古くから祭の中枢部に関わっており、人間同士の面白おかしいやり取りを重視する文化が入り込んできたことも考えられる。平成7年(1995)にデビューした「天満天神御伽衆」(P8)は、祭

の本質を正しく伝えるためのボランティアだ。天神祭を特徴付けるコミュニケーションが円滑に行われるための担い手でもある。祭に参加する講の人たちも、手が空いていれば喜んで話し相手になってくれるだろう。「これは何ですか?」とふとした疑問を口にするところから、誰でもすぐに天神祭のコミュニケーションを始められるはずだ。

**神様と人、人と人との間に入る  
存在として、心がけていること。**

渡邊 船渡御では、神様に奉仕する氏子だけではなく、川岸や橋上に職場の同僚やカップル、家族連れなど様々な人たちが群集します。これらの人々が相互に関わり合えるのが天神祭の特徴です。私たち御伽衆は、船上や川岸の観覧席で解説するだけで

はありません。船と船同士はもちろん、船と川岸や橋上にいる人々との間を結ぶために大阪締め之音頭をとります。ときには川岸のビルでまだ勤務中の人にまで船から呼びかけたり(笑)。こういった天神祭特有のコミュニケーションがあることをご紹介し、皆さんに楽しんでいただくのが私たちの役目です。

平尾 私たちは毎年異なった船や川岸に派遣されて解説しています。神主さんや氏子さんたちは毎年同じ船に乗られますので、いつも、違った視点で解説できる役目というのがありますね。そんな私たちだからこその、どんな場所でも天



渡邊亮一郎さん  
(4期生・2010年入塾)

大関悦子さん  
(3期生・2000年入塾)

平尾真理子さん  
(1期生・2005年入塾)

## 天神祭的コミュニケーションのプロ

# 天満天神御伽衆に聞く!

天神祭の解説役を担う「天満天神御伽衆」は、船上にとどまらず、天満宮境内や、中央公会堂前の陸渡御観覧席、川岸の船渡御観覧席で祭について解説し、神様と氏子たちと観客の間のコミュニケーションを円滑にする。そんな皆さんに、ガイドとして心得や、祭の楽しみ方を話してもらった。

神祭の醍醐味が味わえるご案内を心がけています。

大関 他にも、乗船できることの喜びはお伝えするようにしています。川岸や橋上から100万人の群衆が見守る中、船に乗れるのは1万人。ご説明した途端、皆さんの祭りに対する意識がぐっと変わる。乗りこむ供奉船や奉拝船の意味についてもお話ししながら、奉安船を待つことにしています。

平尾 そうそう、御鳳輦奉安船をお迎えた時は「二礼二拍手一礼で静かにご参拝する習慣です」とご紹介します。天神祭はあくまでも神事ですから、花火も神様への奉納花火です。花火が遠くても文句をいわない(笑)。幸運にも真上に上がった時は、神様とともに楽しめることを喜び合いです。

### 今年の天神祭を 能動的に楽しむためには。

平尾 まずは天満宮にご参拝ください。本殿東側の参集殿縁側には御迎え人形

### 天満天神御伽衆とは?

天神祭のボランティアガイド。大阪天満宮文化研究所が開く養成塾「天満天神御伽衆」の修了生から選抜。主婦からプロアナウンサーに至る異業種のメンバーは、天神祭の首宮・本宮の二日にわたり祭の解説役に徹する。

や、蜷の貝殻を藤棚に見立てて造った「つくりもん」を飾っています。御迎え人形は、歌舞伎や文楽の登場人物がモデルなので、私たちもそれらの芝居を予習し、皆さんにもその場面の臨場感を味わっていただけるよう日々勉強しています。

渡邊 境内で御伽衆の法被を着た私たちを見かけたら、どうぞ声をかけてください。御迎え人形の解説だけではなく、天神祭の由来や、時間が許せば当屋をご案内できます。

大関 千年以上の歴史がある祭なのに、花火大会のように思われる方がいるのは残念ですね。できれば何年か続けて天神祭を見に来てほしい。今年は陸渡御を、来年は川岸から船渡御を、その次の年は船に乗ろう、という具合に。年ごとに視点やテーマを変えたと奥深さや面白さを感じられるはず。





祭の真っ只中、  
本宮の当日に  
落語&トークライブ  
で楽しむ



# 丸わかり! 天神祭

## in 大阪市中央公会堂



**笑える!** 天神祭にちなんだ新作落語2席。  
**学べる!** 天神祭研究の第一人者・高島幸次先生が見方を徹底解説。  
**楽しめる!** 会場を出ればそこはまさに天神祭の舞台。

落語



### 林家染丸 「御迎え人形の恋」

御迎え人形とは船渡御を御迎えする船の船首に掲げられた人形のこと。元禄時代、天満の町々で作られた風流人形を飾ったのが始まりで、最盛期には50体近くが作られ、天神祭を彩った。その人形に、なんと商家の娘が恋をして病の床に伏せてしまったという伝承をモチーフにしたのがこの斬。天満天神祭昌亭による「上方落語台本大賞」の特別賞受賞作というから楽しみだ。



### 笑福亭たま「菅原君の祟り」

人気、実力ともになぎ登りの若手、笑福亭たまさんは、なんと新作落語で楽しませてくれる。天神祭の船渡御では、約100艘の船に1万人が乗り込み、それを見物する100万人の群衆が川岸にあふれ、船上や川岸でさまざまな人間ドラマが繰り広げられる。この日本一熱い祭を題材に、今回ナカノシマ大学のため創ったネタ。さあ、お楽しみに!

## スペシャルならではの特典も!

- ◎其の一  
陸渡御や船渡御の巡幸コースや時間などが一目でわかる、特製パノラマMAPを進呈。会場を出た時点からすぐに使えます!
- ◎其の二  
大阪天満宮が天神祭のプロモーション用に作成中のサンプルビデオを上映。来年完成予定の映像を一般公開に先駆けて見られます。

### 高島幸次(大阪天満宮文化研究所)

落語家のお二人と共に、大阪天満宮文化研究所の高島幸次先生にも加わってもらい、天神祭の楽しみ方を解説するトークをお送りする。映像も交えながら、「天神祭通」になれる鑑賞ポイントを指南。



解説

落語 / 林家染丸 笑福亭たま  
トーク・解説 / 高島幸次&天満天神御伽衆

開催日 / 2013年 7月25日(木)

時間 / 開演 1:30PM ~ (開場 0:30PM ~)

終演 3:30PM 頃

会場 / 大阪市中央公会堂 大集会室

定員 / 500名 (先着順・売り切れ次第終了)

受講料 / 前売(事前精算) ¥1,800

ローソンチケット(Lコード:58877)、e+ (イープラス) で販売中。  
ウェブサイトや店頭端末にてお買い求めください。

当日(会場で支払い) ¥2,300

お申し込みは不要です。当日、会場にてお支払いください。なお、入場時間などを制限させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

主催 / 株式会社JTB西日本 ナカノシマ大学事務局

さらに深く祭を楽しみたい人は…

## 観覧席付きチケットあります。

天神祭をじっくり見たい人には、特設の観覧席がおすすめです。ナカノシマ大学の講座とセットで申し込めば、祭を堪能できること間違いなし。落語→トーク→観覧席も合わせて、天神祭を存分に味わってみよう。

(ナカノシマ大学講座とのセット価格)

◎ナカノシマ大学+陸渡御観覧席  
¥5,900 (通常価格¥6,800)

◎ナカノシマ大学+陸渡御観覧席&船渡御観覧席  
¥11,800 (通常価格¥12,800)

ローソンチケット(Lコード:58877)、e+ (イープラス) で販売中。

ウェブサイトや店頭端末にてお買い求めください。

※どちらかだけでも良いかもしれません。

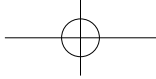
イベント情報・チケット購入はナカノシマ大学ホームページからが便利です!

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは  
こちら!→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340  
(ナカノシマ大学事務局)



# 立命館大阪梅田キャンパス公開講座 大阪富国生命ビル5階にて開講!

各分野の専門家を講師に迎え、知的好奇心をバックアップ。  
学び続けたい社会人の方にも是非参加してほしい、9月からの後期時間割です。

## 大阪・京都文化講座

### 「古きものと新しきもの —大阪京都の芸術—

大阪と京都が創造し、育んできた多くの芸術作品や文化財に焦点を当て、その現代的意義について考えます。

共催 / 大阪大学大学院文学研究科、大阪大学21世紀懐徳堂、立命館大学文学部、立命館大阪オフィス  
受講料:1回1,500円(7回以上一括申込の場合、10,000円)



①	9/30(月)	「連鎖劇と大阪」横田 洋(大阪大学総合学術博物館・助教)
②	10/7(月)	「半跏思惟像の系譜 —京都の仏教美術とその源流—」西林孝浩(立命館大学文学部・准教授)
③	10/21(月)	「大阪の美意識を探る —広告デザインの表象から—」竹内幸絵(大阪市立大学・講師 / サントリーホールディングス)
④	10/28(月)	「平安京復原の今昔 —アナログからデジタルへ—」河角龍典(立命館大学文学部・准教授)
⑤	11/11(月)	「近代関西の大衆音楽」輪島裕介(大阪大学大学院文学研究科・准教授)
⑥	11/18(月)	「古きものと新しきもの —戦前時代劇映画の叙法と変遷—」富田美香(立命館大学映像学部・准教授)
⑦	11/25(月)	「大阪の能、京都の能」中尾 薫(大阪大学大学院文学研究科・講師)
⑧	12/2(月)	「無形文化財のデジタルアーカイブ —舞踊から祇園祭まで—」八村広三郎(立命館大学情報理工学部・教授)



会場 / 大阪富国生命ビル5階  
立命館大阪梅田キャンパス  
(〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4)

時間 / 各回とも2:00PM~3:40PM

定員 / 各回100名 ※先着順

◎講座やキャンパスについてのお問い合わせはこちら。  
※電話での講座申し込みは受け付けておりません。

Tel.06-6360-4895  
(平日9:00AM~5:30PM 土・日・祝休)

Fax.06-6360-4894

E-mail.osaka-of@st.ritsumei.ac.jp

地下鉄谷町線 東梅田駅から徒歩1分 地下鉄御堂筋線 梅田駅 /  
阪神 梅田駅から徒歩3分 JR 大阪駅 / 阪急梅田駅から徒歩5分

◎全講座の内容が書かれた詳細なパンフレットは、こちらのURLからダウンロードできます。

[http://www.ritsumei.jp/osaka\\_office/index\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/osaka_office/index_j.html)

# 大阪オフィス講座

社会問題から芸術文化まで、7つのテーマごとに3回シリーズで展開するバラエティ豊かな講座です。  
受講料:1回1,000円(18回以上一括申込の場合、18,000円)

## 格差社会の進行と深まる貧困を考える

①	9/11(水)	「格差・貧困問題と民主主義」湯浅 誠(反貧困ネットワーク 事務局長)
②	9/18(水)	「生活保護にいま何が問われているのか」唐鎌直義(立命館大学産業社会学部・教授)
③	9/25(水)	「現代日本の格差・貧困社会化の背景を考える」二宮厚美(神戸大学名誉教授)

## くすり今昔

④	10/2(水)	「江戸時代に於ける漢方薬の歴史」羽生和子(薬剤師/文学博士)
⑤	10/9(水)	「新薬づくりの夢 ～学から挑戦する創業のロマン～」北 泰行(立命館大学薬学部・教授)
⑥	10/16(水)	「くすりを創り、育てる ～育薬とは?～」一川暢宏(立命館大学薬学部・教授)

## 美との出会い ～その感性と表現に学ぶ～

⑦	10/23(水)	「上方の舞踊の魅力」福井栄一(上方文化評論家)
⑧	10/30(水)	「テレビと芝居 手書きタイトル55年」竹内志朗(株式会社シュプール代表取締役)
⑨	11/6(水)	「子ども文化と絵本史」永田 萌(イラストレーター/絵本作家)

## 社会病理をのりこえる

⑩	11/13(水)	「愛と憎しみ ―夫婦間暴力、子ども虐待、高齢者虐待への臨床をとおして考える―」中村 正(立命館大学産業社会学部・教授)
⑪	11/20(水)	「思春期・「第二の誕生」と子どもの世界 ―「いじめ問題」から考える―」春日井敏之(立命館大学文学部・教授)
⑫	11/27(水)	「学校外での若者の育ちと支援 ～ユースワークという実践から～」水野篤夫(立命館大学応用人間科学研究科・非常勤講師)

## 暮らしと法律

⑬	12/4(水)	「茶の間談義:現代国際紛争と国際法 ―2013年の国際紛争をふりかえって―」薬師寺公夫(立命館大学大学院法務研究科・教授)
⑭	12/11(水)	「自動車事故と刑法・刑事立法政策」松宮孝明(立命館大学大学院法務研究科・教授)
⑮	2014年 1/15(水)	「遺言と遺産分割 ～家族を思う気持ちと家族関係の修復～」二宮周平(立命館大学法学部・教授)

## 激動の中東情勢を読む ―民主化・紛争・エネルギー問題―

⑯	2014年 1/22(水)	「2011年「アラブの春」以降の中東政治を考える」末近浩太(立命館大学国際関係学部・准教授)
⑰	2014年 1/29(水)	「中東における国際安全保障秩序構築への課題」吉川卓郎(立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部・准教授)
⑱	2014年 2/5(水)	「中東・湾岸情勢と日本のエネルギー安全保障:現状とその課題」堀抜功二(一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター・研究員)

## 人類の営みと環境保全を考える

⑲	2014年 2/12(水)	「低炭素社会の実現に向けて ～都市環境を考える～」仲上健一(立命館大学政策科学部・教授)
⑳	2014年 2/19(水)	「システム思考でみる環境・エネルギー・経済」島田幸司(立命館大学経済学部・教授)
㉑	2014年 2/26(水)	「たかが里山、されど里山 ―平和学と福祉学をむすびつける国際里山塾のこころみから―」桂 良太郎(立命館大学国際関係学部・教授)

大阪の私鉄の  
個性を読み解く!

◎今月の授業

# 【鉄道】

2013年8月講座

## 「すごいぞ! 鉄道王国・大阪〈私鉄編②〉」

講師／黒田一樹 (中小企業診断士・鉄道愛好家)



### 鉄道王国・大阪を語る新シリーズの第2弾。 個性溢れる私鉄について、たっぷり語ります。

5月から始まった大阪の鉄道を語るシリーズの第2回。各社の駅や電車の車両や歴史などに見られる個性を、キーワードを当てはめて考えていくというもので、前回は阪急電車を中心に取り上げた。予定では私鉄2社を取り上げるはずだったが、講師の黒田さんの話はヒートアップ。1社についてしか語る事ができなかった。

そこで少し路線を変更。今回からは毎回1社ずつを取り上げ、全6回にわたってお送りすることにする。次回の第2回では南海電車を中心に展開。そのキーワードは「二項対立」だ。ゴージャスな難波駅と懐かしさを感じさせる汐見橋駅など、相反する性格を併せ持つ南海電車の魅力を、このキーワードに沿って読み取っていこう。

#### くろだいつき

東京在住の中小企業診断士だが、京阪電車80形を保存するなど無茶な発想と行動を愛する鉄道道楽者。月刊島民の鉄道記事と言えば、この人をおいて他にはいない。

募集要項	<b>「すごいぞ! 鉄道王国・大阪〈私鉄編②〉」</b> 日時／2013年8月21日(水) 7:00PM~8:30PM頃(開場6:30PM~) 会場／大阪市中央公会堂 小集会室 受講料／2,000円 定員／100名 主催／ナカノシマ大学事務局 協力／大阪21世紀協会	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学8月講座」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは  
こちら!→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340  
(ナカノシマ大学事務局)

# ナカノシマ大学で大人気だった

眺めて、迷って、想像して楽しい、古地図。パラダイスへ、ようこそ。

昨年5回にわたって開催し、いずれも満員御礼を記録した大人気講座、本渡章さんの「古地図で読み解く大阪の歴史」が1冊の本に！タイトルは「大阪古地図パラダイス」。その名のとおり、見れば見るほど楽しい古地図の世界を、パラダイスに見立ててご案内しようという遊び心たっぷりの趣向だ。



講座の際に資料として配付した古地図はもちろんのこと、その他の古地図もカラーで多数収録。江戸時代から明治・大正と、章ごとに時代が移り変わっていくため、どのように古地図が変化していったのかもよくわかる。大阪だけでなく、京都や江戸の古地図もあり、三都の古地図を見比べる楽しみも。さらに、鳥瞰図の



大家・吉田初三郎が描いた「大阪府鳥瞰図」が付録に付いてくる豪華バージョン。ナカノシマ大学を受講した人も、そうでない人も楽しめる1冊です。



## 『大阪古地図パラダイス』

本渡章

140B刊 1,900円＋税(A5判・並製・244ページ)

書店にて発売中!

本書に収録されている古地図(一部)

- 大阪
- 〔冷泉田融花山〕
- 〔三番之御宇 難波古絵図〕
- 〔浪華往古図〕
- 〔辰歳増補大阪図〕
- 〔増修大坂指掌図〕
- 〔新坂大坂之図〕
- 〔大阪市街図附人力車賃金表〕
- 〔大阪遊覧案内地図〕
- 〔帝國大阪細見図〕
- 〔電車明細大阪案内図〕
- 〔新撰増補大坂大絵図〕
- 〔グレート大阪市全図〕
- 〔天保新改撰州大阪全図〕
- 京都
- 〔花洛往古図〕
- 〔新撰増補京絵図〕
- 〔京都名所案内記図〕
- 江戸
- 〔長祿年中御江戸古絵図〕
- 〔新改御江戸絵図〕
- 〔名所細見東京全図〕

...and more!

## 大阪の古地図話りのエキスパート!



本渡章(ほんどあきら) 1952年大阪生まれ。作家。編集者などを経て、文筆業に。1996年第三回バスカル短篇文学新人賞優秀賞受賞。著書「大阪古地図むかし案内」「続大阪古地図むかし案内」「続々大阪古地図むかし案内」「大阪暮らしむかし案内」「大阪名所むかし案内」「京都名所むかし案内」「奈良名所むかし案内」(以上、創元社)。「大阪人のプライト」(東方出版)など。共著書に「大阪の教科書」(創元社)、編著書に「超短編アンソロジー」(ちくま文庫)がある。

# 古地図講座が本になった。



ナカノシマ大学  
NAKANOSHIMA UNIVERSITY



龍谷大学 龍谷エクステンションセンター  
RYUKOKU UNIVERSITY

## 龍谷エクステンションセンター(REC)と ナカノシマ大学の共同講座が始まります。

龍谷エクステンションセンター(Ryukoku Extension Center=「REC」)は、  
龍谷大学が374年の歴史の中で培ってきた教育・研究成果を、地域社会に普及することを目的につくられた組織です。  
地域に開かれた大学を目指して1992年にスタートした市民向け生涯学習講座「RECコミュニティカレッジ」は、  
「仏教・こころ」「文化・歴史」「文学」といったコースに年間約440講座を配し、皆さまの知的欲求にお応えしています。  
龍谷ミュージアム提供講座もその一つ。日本初の仏教総合博物館である  
「龍谷ミュージアム」での研究成果をもとに、仏教の世界をわかりやすく解説しています。  
◎RECコミュニティカレッジは大阪梅田・京都・滋賀のキャンパスで開講しています。  
詳しい情報は☎06-6344-0284 WEB:http://rec-ryukoku.jp/

### 「絵解き」仏教あんない～見て、聴いて、学ぶ仏教の世界～

◎第1回「絵解きとは何か?」

対談／入澤 崇(龍谷大学 龍谷ミュージアム館長)  
 积 徹宗(相愛大学教授・浄土真宗本願寺派如来寺住職)

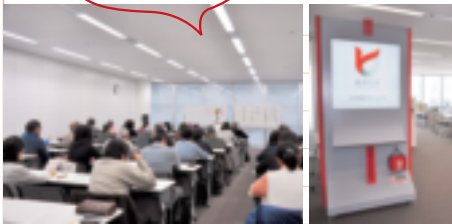
講師はこのお二人。

仏教の教えや極楽や地獄を描いた絵画から、  
何が読み取れるのか? それを描いた意図とは?  
今までなかった仏教案内スタート!

地獄絵図の間魔王は、なぜあんなに恐ろしい顔をしているのか? はたまた亡くなる直前を描いた涅槃図においてなぜ釈迦は横たわっているのか? 人間に混じって動物たちが描かれている理由はいったい…?

仏教の教えを絵画によって表現することを「絵解き」と呼ぶ。また、描かれた

会場はこちら。



#### 龍谷大学 大阪梅田キャンパス

在学生の就職活動の支援拠点となっているほか、広く社会人向けの講座など、大学での研究成果を活かした講座を数多く開催している。ヒルトンプラザウエストオフィスタワー14階と、アクセスも抜群のキャンパスが今回の会場です。http://www.ryukoku.ac.jp/osaka\_office/

絵を解説することで仏教をわかりやすく広める営みも「絵解き」と呼ばれる。絵には描いた人々の怖れや疑問や期待が込められており、そこから意味や時代背景が導き出せるはずだ。

今回から始まるこのシリーズ講座は、ナカノシマ大学と龍谷大学が共同で開催する。講師として登場するのは、仏教総合博物館である龍谷大学龍谷ミュージアムの館長・入澤崇先生と、『大阪の神さん仏さん』でもおなじみの积徹宗先生。仏教の教えを現代の生活の中に活かそうと説く2人が、仏教絵画を題材に「何が描かれているのか」、そして「なぜそのように描かれなければならなかったのか」を考察していく。

一見、難しそうで退屈に見える仏教絵画も、ビジュアルによってわかりやすく伝えるために作られたもの。コミカルな描写やおどろおどろしい場面もあり、実は「初心者向け」なのだ。絵で見て学ぶ、ちょっと変わった仏教案内をどうぞ楽しんで!



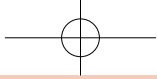
#### 入澤 崇さん

(龍谷大学 龍谷ミュージアム館長)  
専門は仏教文化学。アジア各地域における固有の文化と仏教がどのように交わるのか、信仰や習俗、儀礼、美術などに着目して研究。龍谷ミュージアムでは、昨年、仏教絵画を集めた展覧会「絵解き」ってなに? 語り継がれる仏教絵画」を開催している。



#### 积 徹宗さん

(相愛大学教授・浄土真宗本願寺派如来寺住職)  
ナカノシマ大学ではおなじみ。比較宗教学の観点から、仏教の教えが現代においてどのように役立てられるのか、わかりやすく説く。ナカノシマ大学での対談をまとめた『大阪の神さん仏さん』(140B)のほか、『現代霊性論』(講談社文庫)など著書・対談本多数。



## 「ベゼクリク石窟寺院第4号窟壁画 誓願図」(デジタル復元)

第1回目で  
取り上げる仏教絵画

ベゼクリク石窟寺院は、中国・新疆ウイグル自治区のトルファン郊外にある寺院。ベゼクリクはウイグル語で「絵のあるところ」を意味するが、20世紀初頭に調査隊が派遣された際、寺院は荒れ果て、壁画は失われつつあった。それを受けて、龍谷大学ではNHKと共同で、石窟内の壁画をデジタル復元に取り組み、龍谷ミュージアムでは石窟内の様子が再現展示されている。シリーズ第1回目の講座では、この図を例に「絵解きとは何か?」の概論をお送りします。



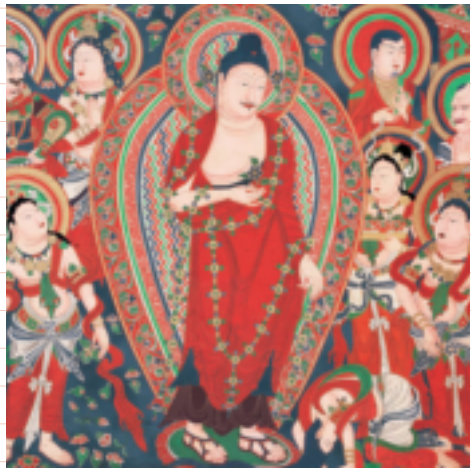
「誓願図 舟上の仏と隊商主」



「誓願図 カーシャバ仏とバラモン」



「誓願図 スネートラ仏と商主」



「誓願図 ディーバンカラ(燃燈)仏とバラモン」

募集要項	<p><b>「絵解き」仏教あんない</b></p> <p>日時／2013年8月9日(金) 7:00PM~8:30PM頃(開場6:30PM~)</p> <p>会場／龍谷大学 大阪梅田キャンパス</p> <p>受講料／2,000円</p> <p>定員／80名</p> <p>主催／龍谷大学 龍谷エクステンションセンター ナカノシマ大学事務局</p>	<p>お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。</p> <p>〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「龍谷大学コラボ講座」受付係 FAX.06-4799-1341</p> <p>※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。</p>

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは  
こちら!→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340  
(ナカノシマ大学事務局)

# トウニン月報

2013年7月1日発行

トーマスを始めおなじみのキャラクターが描かれ、京阪本線・交野線・大津線を利用する人々を楽しませている「きかんしゃトーマス号」。現在の3編成に加え、トーマスのお茶目な親友、パーシーをフィーチャーしたラッピング車両が交野線にお目見えする。新しいラッ



©2013 Gullane(Thomas) Limited.

## 「きかんしゃトーマス号」に新しい仲間やスタンプラリーも

**きかんしゃトーマス号2013**  
 走行期間/2014年3月23日(日)まで(予定) 走行エリア/京阪本線・交野線・大津線  
**「京阪電車×富士急行線 きかんしゃトーマスとなかまたち スタンプラリー」**  
 開催期間/7月20日(土)~2014年1月13日(月・祝)  
 ◎ラッピング車両の運行時間やスタンプラリーの設置場所など、詳しくは<http://www.keihan.co.jp/traffic/railfan/thomas2013/>にて  
**「きかんしゃトーマスとなかまたち2013 京阪線フリーチケット」**  
 発売期間/7月20日(土)~2014年1月13日(月・祝)  
 金額/大人1,200円 小児600円(オリジナルぬりえブックつき)  
 発売駅/中之島・淀屋橋・天満橋・京橋・守口市・寝屋川市・香里園・枚方市・樟葉・中書島・丹波橋・祇園四条・三条・出町柳の各駅  
 有効区間/京阪線・男山ケーブル(大津線除く) 通用期間/発売期間中のお好きな1日

ピング車両制作にあたり、メインとなるキャラクター投票を行なったところ、一般のファンから最も多くの票を獲得したパーシーに決定。7月19日からの乗車開始をどうぞお楽しみ。また、7月20日からはキャラクターがデザインされた京阪線1日乗車券の発売や、「き

**平成OSAKA 天の川伝説2013**  
 日時/7月7日(日) 放流7:20PM~9:00PM  
 場所/八軒家浜周辺(京阪電車・地下鉄天満橋駅・北浜駅下車)  
 料金/観覧無料 有料観覧エリア・いのり星放流券は前売1,000円(7月4日まで) 当日1,500円  
 ◎前売り券は、チケットぴあ(☎0570-02-9999/Pコード624-036)ほか、大阪水上バスチケット売り場(八軒家浜)、ルポンドシエル、大阪キャッスルホテルでも販売。  
<http://www.osaka-amanogawa.com/>

**特別クルーズ【天の川クルーズ】**  
 天の川をクルーズし、いのり星を放流できる。  
 料金/大人2,000円 小人1,500円  
 予約・問い合わせ/☎06-6942-5511  
**【グルメ&ミュージック船「セタククルーズ」】**  
 クルーズといのり星の放流に、「ルポンドシエル」のオードブルと1ドリンク、さらに音楽の演奏も楽しめる豪華なプラン。  
 料金/大人7,700円  
 予約・問い合わせ/☎06-6947-0888

**天満橋★バル**  
 3枚綴りのチケットを購入し、天満橋界隈の飲食店をめぐるイベント。  
 日時/7月6日(土)・7日(日)11:00AM~深夜  
 チケット/前売1,800円 当日2,100円  
 問い合わせ/天満橋★バル事務局  
 ☎070-6509-8626(平日10:00AM~6:00PM)

**天満橋★コン**  
 「天満橋★バル」と同時に開催されるパーティー。  
 7月7日は「ルポンドシエル」の料理も楽しめる。  
 日時/7月6日(土)・7日(日)  
 参加費/7月6日(土)5,000円 7日(日)9,800円  
 問い合わせ/天満橋★コン事務局  
 ☎06-6245-2340(平日10:00AM~6:00PM)

夜になると星が天に満ちることから地名が付いたとされる天満では、古くから星を祀る信仰が伝わってきた。その

現代の解釈とも言える「平成OSAKA 天の川伝説」は、LEDを光源とする「いのり星」を天川に放流し、祈りや

(大迫力・本誌)



天の川プロジェクト®

## 中之島の七夕を彩る「平成OSAKA 天の川伝説2013」

願いを捧げる。昨年は約4万人を動員し、大阪に夏の到来を告げる行事となりつつある。眺めるだけでも美しいが、有料観覧エリアでは観覧者が自分の手で「いのり星」を放流することができ、短冊に願いを書いて飾ることもできる。また、これに関連したイベントも多数。この日だけの特別クルーズや、天満橋界隈の飲食店をめぐる「天満橋★バル」のほか、七夕にちなんだ「天満橋★コン」も同開催される。





蓮池薫氏

昨年、創立から100周年を迎えた関西でも古い紳士の社交倶楽部である大阪倶楽部で、公開講演会が開かれる。通常の講演会は会員に限定されているが、今回は一般にも開かれ、会員でなくとも誰でも参加できる。もちろん女性もOKだ。

講師として登壇するのは北朝鮮による日本人拉致事件の被害者であり、帰国後は北朝鮮の研究者・翻訳家として活躍する新潟産業大学准教授の蓮池薫氏。「夢と絆」拉致と決

# 創立100周年の大阪倶楽部にて公開講演会を開催

淀屋橋のオフィス街に今もなおその姿を残す適塾。天保9年（1838）に緒方洪庵によって開かれてから、今年には175周年にあたる。また、緒方洪庵の没後から150年という節目の年にもあたっている。

その適塾や緒方洪庵をテーマとする原点としている大阪大学では、記念シンポジウム「医の知の未来へ」を開催。大阪大学が誇る各分野の第一人者に加えて、『ブラック・ジャックは遠かった』で大阪医学部時代の思い出を綴っている久坂部羊さんも登壇する。

もともと適塾では文系や理系など学問領域を限定することなく、自由な学問が実践されていた。今回のシンポジウムでも、眼科の研究者、工学の専門家、医師／作家とジャンル異なる3人が、自らの専門分野を語るだけでなく、それをどう他の分野と融合させ、未来を生き抜く知識として活かしていくかを話そう。江戸時代の学問所で繰り広げられていたように、ジャンルにとらわれない「超域」的な学問や研究を通して、未来において生きる力を高める方法を考えよう。



久坂部羊 川崎和男 西田幸二

## 大阪大学シンポジウム 適塾創立175周年・緒方洪庵没後150年記念「医の知の未来へ」

【第1部／講演】  
西田幸二（大阪大学大学院医学系研究科／教授）  
「眼とiPS細胞の未来」  
川崎和男（大阪大学名誉教授／工学研究科・特任教授）  
「適塾橋本左内と先端デザイン学」  
久坂部羊（作家・医師）  
「適塾と命の重さ」

【第2部／座談】  
医の知の未来へ  
座談：西田幸二 川崎和男 久坂部羊  
総合司会／脇浜紀子（読売テレビアナウンサー）

日時／8月3日（土） 1:30PM～6:00PM頃（開場1:00PM）  
会場／うめきた・ナレッジキャピタル地下2階  
コングレコンベンションセンター  
定員／500名（要事前申込・先着順）  
参加料／無料  
申し込み／氏名・年齢・性別・住所・電話番号を明記の上、下記のファックス、またはE-Mailで応募。  
FAX:06-6444-2338  
E-Mail:sympo-info@tekijuku.osaka-u.ac.jp  
お問い合わせ／大阪大学学学連携課  
☎06-6444-2137（平日9:00AM～5:00PM）



# 中央公会堂で夏休みの思い出づくり

「中之島知ってこ探検隊」は、大阪市中央公会堂の見どころをスタッフが案内してくれる見学ツアー。じっくり見て回れるだけでなく、印象に残った場所を絵に描く

断」と題する講演は、なかなか聞く機会にめぐり会えない貴重なお話になるだろう。  
（大迫力・本誌）

「中之島知ってこ探検隊」係 ※7月20日（土）必着  
【往信面】「中之島 知ってこ探検隊」参加希望」と明記すること。①お子様のお名前（フリガナ）と学年（※ハガキ1枚につき小学生2名までとその保護者）②保護者の名前（フリガナ）③郵便番号・住所・電話番号 ④探検隊で知りたいこと、期待すること 【返信面】①申込者の住所 ②保護者の名前  
※1組につき往復ハガキ1枚まで。※応募した小学生以外の同伴はできません。

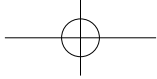
【誕生から未来へ～中之島3丁目時代と建築の響き合い～】  
①若林あかね（映像作家）  
映像上映「朝日ビル～伝統の継承と進化～」  
②岡橋稔（竹中工務店大阪本店作業所）  
「中之島朝日建築の解体に臨む想いと技術」  
③石田潤一郎（京都工芸繊維大学教授）  
講演「時代と建築の響き合い」  
④鼎談 石田潤一郎 若林あかね 野田隆史（竹中工務店大阪本店設計部）  
日時／7月29日（月）6:30PM～9:00PM  
会場／フェスティバルスイート（中之島フェスティバルタワー37階） 定員／100名  
申し込み／ハガキ、FAX、ホームページより、代表者の郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、申し込み人数（2名まで）を明記し、7月16日（火）必着。  
※応募者多数の場合抽選。後日参加証を送付 〒530-8255（住所不要）アサヒ・ファミリー・ニュース社「時代と建築」係  
FAX:06-6201-1941 http://asahi-family.com ☎06-6201-1939（平日10:00AM～6:00PM）

時間もあり、子どもにも大人気だ。  
今年も巨大地震から歴史的建造物を守るために地下に設置された免震装置も見学できる。お絵描きの時間にはボランティアの方に絵の指導を受けることもでき、そこで描かれた絵は館内に展示されるのだそう。中之島で夏休みの楽しい思い出をつくってみよう。  
（大迫力・本誌）

朝日新聞社の建築群は、宇和島藩蔵屋敷から時計台の新社屋、朝日会館、朝日ビルと、常に時代の最先端を走ってきた。昨年、中之島フェスティバルタワーが開業するなど、次の時代へのパトロンタッチが行われようとしている。その建築群の姿を伝える映像&トークイベントが行われる。  
映像作品や、ビルの解体を担当する関係者のトーク、さらには講演によって中之島3丁目を舞台に、時代と建築が互いにどう影響し合ったのかを紐解いていく。（大迫力・本誌）



# 中之島の都市美を映像と講演で振り返る



## 華やく街に誘われて③

フェスティバルプラザの「大阪らしさ」をめぐる

# 暑

さに茹だる  
夏のオフイ  
ス街の午後

5時。といえ、まだ十分に日は高い。しかし仕事の区切りも傾合いだし、西日の傾き具合も実にエエ感じになってきた。こんな時に「よっしゃ、今日は皆でパーティーと行こか」と勢いよくスーツ姿で練り出すべき場所が近所にあるのがオフィス街の懐の深さであるし、それがビアホールやビアガーデンであれば、ゴキゲン度は倍増する。そうした言わば「給料取りの夏の贅沢場所」にはこと欠かない中之島界限においてニューカマーであるこのビアホールが、見事に中之島ならではのロケーションに生まれてくれたことを、まずもって飲みたい。酒の神・パッカスではなく、大阪生まれの「ビール



## 「水辺の爽快」という悦がある街の、たまらなさ。

文/堀埜浩二

生命ビル店」が第1号で、こちらは1953年と戦後高度成長期の話。昭和の大坂ではターミナルのビル屋上は、夏場ほぼ全てがビアガーデンとなり、「給料取り」たちは連日ここに繰り出して豪快にジョッキを空けていった。そうした勢いや気分がこの街の成長を支えていた時代だったとも言えるし、今また中之島から梅田にかけてビアホールやビアガーデンが増殖しているのは、時



代が改めてそうした気分を求めているからでもあるのだろう。

あらゆる酒の中でビールが最も開放系のそれであることは論を俟たないが、水辺のロケーションが加わることで、爽快感にドライブがかかる。テラス席でひんやりとした川風を感じながら喉にぐいど流し込む夏の夕暮れ、日の傾きとともにアンバーからボルドーへと表情を変えていく空、そして立ち並ぶ高層ビルの光が水面に映える夜。そうした時間と向き合う傍らに、ビアホールならでは、ベストコンディションの「生」がある。おまけにココは、「音楽の神様が讃えたフェスティバルホールから、一番近い店。アフターアワーズにはビールの神も待っているとはいささか出来過ぎだが、それが街というものの手柄であり、「たまらな部分」なのである。

ほりのこうし  
20代から大阪の街や店に深く関わり、ライターとして多くの雑誌に執筆。現在はビジュアルプロデューサー副社長として、イベントの企画運営などを手がける。



祝祭へようこそ。



<http://festivalplaza.jp/>  
提供/株式会社 朝日ビルディング



### フェスティバル&ビアホール

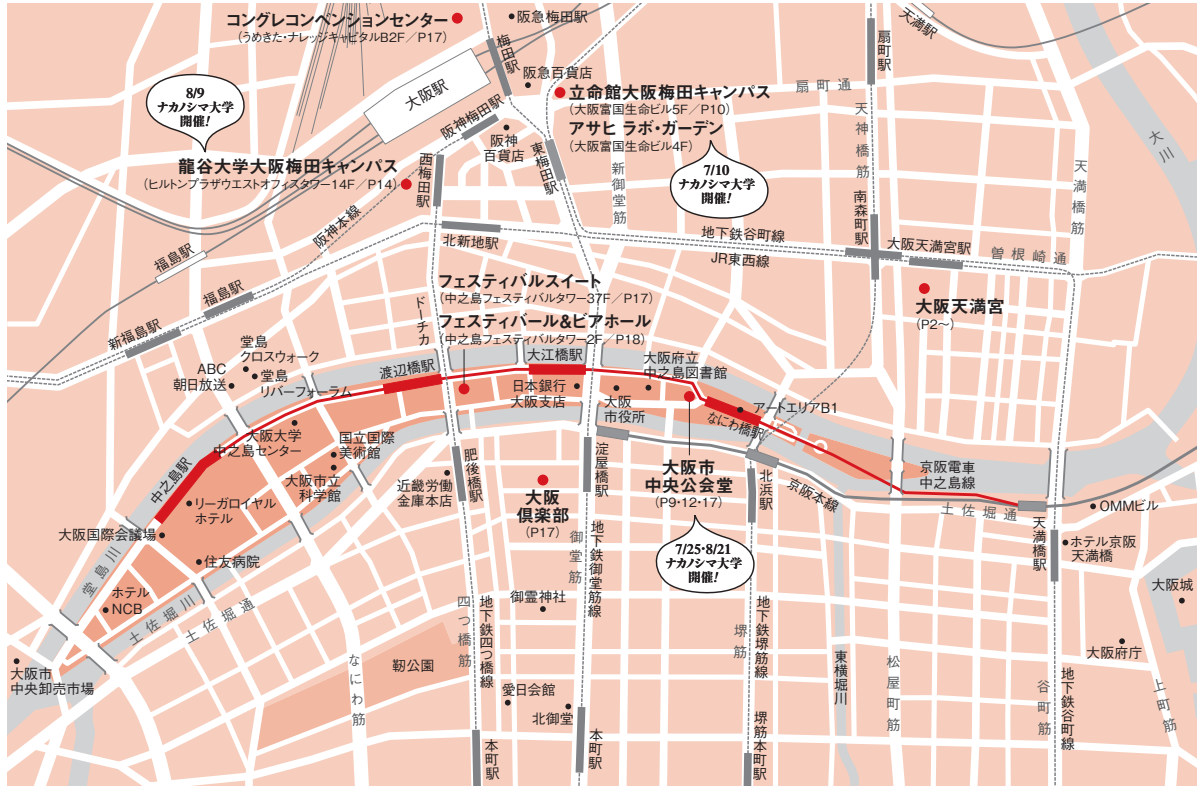
●中之島フェスティバルタワー 2F

エビスの樽生が全4種類楽しめるほか、地ビールなども豊富に揃う現代最新版のビアホール。堂島川に面した抜群に開放感のある風景がその気分をさらに高めてくれる。エビスビール(生)662円、琥珀エビス683円。料理メニューやビール以外のお酒のラインアップも充実しており、毎日、明るいうちから気持ちよく飲んでいる人たちが賑わっている。

☎06-4708-3312 11:00AM~11:00PM 不定休

# 大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、  
みんな「島民」です！



## 『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/デリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店] 旭屋書店 梅田地下街店/旭屋書店 堂島地下街店/カペラ書店/紀伊国屋書店 本町店/ジュンク堂書店 大阪本店/ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店/ジュンク堂書店 天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/スタンダードブックストア/天牛塚書店 大江橋店/ブックファースト 梅田店/ブックファースト 淀屋橋店/文教堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店 [公共施設・大学関連施設など] アイススポット/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立中央図書館/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪フィルハーモニー会館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪城スクエア/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大坂リバーサイドキャンパス/国立国際美術館/CITY NAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住まい情報センター/中央電気倶楽部/ホテルNCB/メビック扇町
- [店舗・医院など] アリアスカ マーブルトレ/アンドール 本町本店/上町貸自転車/Ultra 2nd/江戸前料理 志津町/天満橋鍼灸整骨院/MJB珈琲店/大西洋服店/OOO(オー)/カセタ/喫茶カウンター/喫茶SAWA/クラフット中之島/黒門さかえ/コモンカフェ/サトウ花店 中之島本店/ザ・メロデ/じろう亭/Giron's JR/心斎橋山田兄弟歯科/住友病院/セブンイレブン大阪証券取引所店/タビエスタイル/ティールームジカ/たまがわ鍼灸整骨院/東郷歯科医院/NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャラ/バスターレ/花かつ/ BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマニアカフェ/フレイルハウス/ミニジロー/宮崎歯科/やきとりばかや/吉田理容所/ラッキーニャ/LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店] 伊勢屋書店/大阪書店/紀伊国屋書店 京橋店/なんばミヤタ/福島書店/柳々堂/ループル書店 [公共施設・大学関連施設など] 大阪市社会福祉修・情報センター/大阪市立図書館 [店舗・医院など] あじさい/アートアンドクラフト/欧風食堂 ミリパール/大阪市信用金庫 江戸堀支店/御船かもめ/Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かきキッチン/ネイルサロン スワンナ/バルビコ/ホテル64オオサカ/MANGUEIRA/Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学運堂 フレスト店/Books 呼文堂/水嶋書房 千早モール店/水嶋書房 千早駅前店/大阪狭山市立図書館/大阪大学企画部広報・学連事務室/大阪大学 21世紀徳徳堂/大阪大学本部/寝屋川市役所/摂南大学 地域連携センター/郵政考古学会/ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/大手通りストリートギャラリー 街・発信/納屋工房/タバーン・シンパソ/百練/奈良県立図書館情報館

## ◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

## ◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

## 次号予告 中之島古地図ウォーカー

ナカノシマ大学講座をまとめた『大阪古地図パラダイス』が発売されたばかりの本渡章さんが、古地図を手に中之島を歩き、楽しみ方をご案内。

●『月刊島民』vol.61は2013年8月1日発行です！

編集・発行人/江弘毅(編集集団140B)  
編集・発行/月刊島民プレス  
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)  
松本 創 大迫力(編集集団140B)  
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階  
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341  
制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)  
デザイン/山崎慎太郎  
表紙イラスト/奈路道程  
印刷/佐川印刷株式会社

また、夏が好きになる。



衣装提供…京阪百貨店 守口店 中之島けい子  
呉服販売 おお又 深草駅



山鉾巡行



宵山

＜祇園祭＞ お囃子の音色は、京都に夏を告げる風物詩。絢爛豪華な山鉾が華麗に街を彩ります。

鉾建・山建 7/10(水)～14(日)

宵山 7/14(日)～16(火)

山鉾巡行 7/17(水)【四条烏丸9時出発】

●祇園四条駅下車 「山鉾巡行」へは祇園四条駅、三条駅下車

## おけいはんの祇園祭、天神祭

日本が誇る2つの祭りへ、京阪電車がお連れします。

＜天神祭＞ およそ100隻もの船が行き交う船渡御に、奉納花火。水の都を輝かせる壮麗な祭です。

宵宮 7/24(水)

本宮 7/25(木)

陸渡御 【大阪天満宮15時30分頃出発】

船渡御 【天神橋・飛翔橋18時頃出発】

奉納花火 【19時頃から打ち上げ】

●天満橋駅、なにわ橋駅、北浜駅、京橋駅下車



おけいはんの人。

www.okeihan.net



船渡御

※詳しくは、ホームページまたは京阪電車主要駅でK PRESS 7月号をご覧ください。